

産後ケア事業先進的取り組み、我孫子市を視察！

我孫子市の産後ケア事業の平成29年度利用実績は、産後ショートステイ47人、産後デイケア32人、ママヘルプサービス38人で、『身体を休めることができた。教え方も丁寧だった。』や『授乳についても教えてもらえた。』などの、産後の育児不安の軽減につながっています。産後デイケア(個別)では、『ゆっくり眠れた。身体が楽になった。』、『助産師と話ができる不安も解消された。』、『母乳指導が受けられ、助産師がとても親切。』、産後デイケア(グループ)では、『リフレッシュができた。』、『他のママとも話ができる。』などの意見も聞かれました。

【視察の感想】

現行の産後ケアの短期間では満たされないケアを、その後のデイサービス型で補うことは有用で、特に育児不安が強いケースや、虐待が心配されるケースでは、今後ショートステイやデイサービスなどの産後ケアが求められます。千葉市においても産後デイサービスを実施することは、さらなる子育てサービスの充実につながると思われます。

小・中学校普通教室にエアコン設置を求める申入書を市長へ！

熊谷市長へ、普通教室にエアコン設置を求める申入書を提出しました。早期の設置に向け、設置手法、発注方式、統廃合となる学校への設置について、また、設置までの間、夏休みの延長についてなど、意見交換させていただき、会派としての要望を求めました。



三井みわこ プロフィール

1971年：生まれ 千葉市中央区登戸在住
2002年：NPO法人ハートケアゆーあい（障がい者の施設）設立
2003年：聖徳大学大学院児童学研究科修士課程修了
2006年：NPO法人政策塾「一新塾」（熊谷市長と同期）卒塾
千葉県教育戦略ビジョン策定作業部会委員
2007年：社会福祉法人「白雪会」の理事に就任、軽費老人ホーム「ほんくらぶ」の運営に携わる
2008年：ちはCO2C02ダイエット推進／県民会議 委員
2010年：千葉市「新市民計画策定のための市民ワークショップ」委員
2011年：千葉市議会議員選挙 初当選
2013年：都市建設委員会副委員長
2015年：千葉市議会議員選挙 2期目当選

ご意見・ご要望がありましたら、右記の連絡先までよろしくお願いします。

E-mail : mm@mitsui-miwako.com
Twitter ID : 三井美和香
発行：三井 美和香
TEL : 043-216-5432
FAX : 043-216-5433
千葉市中央区登戸 1-11-13-203

三井みわこ で検索！

新年度予算要望書を市長へ提出！

新年度の予算編成にあたり、会派としての要望をまとめ、熊谷市長へ直接提出しました。4年間の任期の集大成として、新年度の予算編成はとても中身の濃い要望をすることができました。



特に私からは、これまで重点的に取り組んできた下記項目について強く要望させていただきました。

【子育て支援と教育の充実】

- ・保育の質の確保
- ・産後ケア・宿泊型産後ケア事業の推進
- ・エンゼルヘルパー派遣事業の充実
- ・ひとり親家庭に対する支援

【高齢者福祉の充実】

- ・千葉市あんしんケアセンターを増設
- ・特別養護老人ホームの増設
- ・認知症カフェの推進
- ・エンディングプランの推進

風疹流行の緊急対策についての要望書を市長へ！

10月21日、風疹の流行に対する緊急対策についての要望書を会派幹事団で市長に提出しました。本市及び千葉県を中心に風疹が流行しており、全国においても昨年の10倍を超え、今後も増加することが医療関係者において懸念されています。千葉県では平成30年10月3日現在の届出数が累計196人であり、その内千葉市内では54人に達しています。そこで、成人に対するMRワクチンの費用助成を早急に実施する等、要望しました。

千葉市議会議員（中央区選出）

なでしこ力!! 三井みわこ 議会報告

第3回定例会 一般質問で登壇！



これまで、福祉の視点、女性の視点で、高齢者対策、障がい者支援、子どもから大人まで、誰もが「安心・安全に暮らせるまちづくり」を目指して取り組んできました。引き続き残り任期も、福祉の専門的知識を生かして全力で取り組みます。

平成30年第3回定例議会が9月6日～10月4日に開催されました。今議会では「保育について」「妊産婦の支援体制について」一般質問で登壇しましたのでご報告します。



いじめ・不登校対策にLINEアプリ実証実験開始！

平成29年度第4回定例会にて、いじめや不登校の対策について一般質問を行いました。SNSを活用したいじめ対策や、相談体制を整備していくことを要望、このたび平成30年10月26日から平成31年1月31日までモデル事業として実施されることとなりました。

①趣旨・目的

様々な悩みを抱える子供たちに対し、急速に普及している通信手段であるSNSを活用した相談体制を構築し、相談に係る多様な選択肢を用意することにより、いじめや不登校等の未然防止や早期発見、生徒指導上の諸問題の深刻化を防止する。

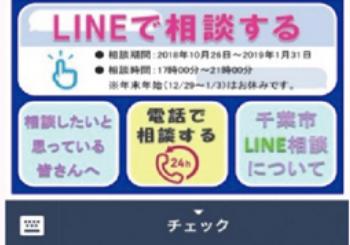
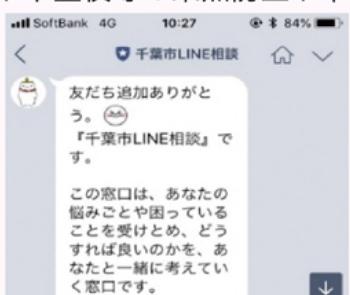
②事業実施の背景

本市では、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置拡充、各課・各教育センター等の相談窓口や「千葉市相談ダイヤル24」の設置など、様々な悩みを抱える子供たちに対する相談事業の充実に努めてきた。また、各学校においても組織的な体制を確立し、子供たちとの信頼関係を基本とした教育相談体制を充実させ、一人一人の個性の伸長や心身の健全な育成を図ってきた。しかし、ここ数年、増加傾向にある不登校児童生徒やいじめを含め様々な生徒指導上の問題に悩む児童生徒への早期対応が課題となっている。そこで、文部科学省の「SNSを活用した相談体制の構築事業」を活用し、LINEアプリを利用した教育相談窓口をモデル事業として実施し、その効果を検証する。

③開設期間・相談時間（予定）

平成30年10月26日（金）～平成31年1月31日（木）（年末年始は除く）
平日、土日ともに、17:00～21:00まで

④対象者 千葉市立学校の中高生（約25,000人のうち希望者）



平成30年第3回定例会 一般質問

保育について



千葉市内の保育施設 268ヶ所の内、市の面積基準を満たす園庭を敷地内で確保している施設は 162ヶ所、園庭がない又は敷地面積が十分でない等の理由で、代替の公園を使用せざるを得ない保育施設は 106ヶ所、中でも中央区だけで 34ヶ所、全体の 32%に

あたります。子どもが一日の大半を過ごす場所である保育園における遊び環境は、子どもの身体の発育・運動能力の向上の面からも非常に重要です。本市における待機児童解消に向けた、保育施設を増やす方針は、非常に重要であると認識していますが、子どもの成長を考慮するのであれば、単に保育施設の数だけ増やすのではなく、それに付随する遊びの場となる環境の整備が必要ではないのでしょうか。

小学生の体力・運動能力の現状について、どう捉えていますか？

A 昨年度公表された体力・運動能力調査全8種目の結果は、全学年で全国平均値以上であり、多くの種目で全国平均値を上回っていることから、本市の小学生の体力・運動能力は、概ね良好である。

子どもの体力・運動能力の向上を、保育園、小・中学校など各発達段階で、どのように取り組んでいますか？

A 保育所等では、乳児から小学校就学前までの児童の発達段階に応じた適切な遊びや運動ができる環境の確保に努めている。小学校では、ジョギングや縄跳び等の達成状況をカードに記録することなどにより、日常的に運動する意欲を高める。中学校では、授業の中に5分間走や筋力トレーニングを補強運動として取り入れるなど、体力・運動能力の向上に積極的に取り組んでいる。



園庭のない中央区内の保育施設では、代替公園で週何日、外遊びをさせていますか？

A 低月齢の乳児は首のすわりや育ちに配慮した頻度や時間での外出を行い、散歩や外遊びが可能なお子さんは、雨の日や夏場の猛暑日などを除き、基本的に毎日散歩や公園での外遊びをしている。



公園遊具は年3回点検となっているが、砂場の点検は年に一回しか行われず、砂が少なく固まった状態になり、一部の公園では砂場にタバコの吸い殻が散乱しています。公園管理の現状は？

A 砂場は、造園業者等が公園清掃の際にゴミや落ち葉の除去を行っている。また、職員による年3回の公園施設一斉定期点検や日常的な巡回、造園業者による砂場を確認し、利用が多い砂場で、砂をほぐして、混入した異物を除去する「ふるいがけ清掃」を年に1回程度実施している。今後は、子どもたちが安全に遊ぶことができる環境の確保に努めていく。



妊産婦の支援体制について

助産師の家庭訪問による「訪問型」と、産科医療機関や助産所に宿泊をする「施設型」の産後ケア事業が、平成29年7月から始まり、その対象者は家族等から十分な育児等の援助が受けられない産婦及びその子であり、心身の不調又は育児不安がある者、その他支援が必要と認められる者とされています。



平成29年度の母子健康手帳発行数と、そのうち支援が必要と判断された人数、また、出産後の相談に関する窓口は？

A 平成29年度の母子健康手帳発行数は 7,067 件、そのうち、支援が必要と判断された方は、900 人。また、出産後の相談に関する窓口は、母子健康包括支援センターとなっている。出産後の体調不良や育児不安に限らず、経済的困窮や上の子の預け先等についても相談を受け、必要に応じて関係各課と連携して対応している。



乳児家庭全戸訪問事業における、訪問家庭数および訪問率は？

A 平成29年度の対象数は 6,820 世帯であり、このうち、職員が直接お会いできた家庭数は、6,574 世帯で、全体の 96.4% です。



産後ケア事業の各区の登録及び利用実績は？

A 平成29年度の登録数は、中央区 153 人、花見川区 106 人、稲毛区 120 人、若葉区 104 人、緑区 73 人、美浜区 106 人、計 662 人。利用実績は、中央区 81 人、花見川区 49 人、稲毛区 79 人、若葉区 49 人、緑区 32 人、美浜区 52 人、各区合計 342 人。



産後ケアの施設型は、9カ所の医療機関で受け入れ可能となっているが、出産した者以外は産後ケアを受けることが出来ない医療機関もある、見解は？

A 本市では、産後ケア事業を委託するにあたり、区別せず受け入れることを契約条件の一つとしている、受け入れないということはないと考えている。



「エンゼルヘルパー派遣事業」の初回無料券の利用実績は？

A 平成29年度の初回利用者数は、前年度の 148 人から 273 人、クーポンが効果を上げたと考えている。



エンゼルヘルパーの研修体制と質の確保、向上の考え方？

A ヘルパーの資質の向上により、利用者の皆様に質の高いサービスが提供されるよう、引き続き、事業者に対し、研修の実施を働きかけていく。



ファミリーサポートセンター事業の全国の利用状況は、「一時預かりに関する援助」よりも、「自家用車による送迎に関する援助」が多くなっている、本市では？

A 平成29年度は、保育所・幼稚園、学童保育等の送迎のみを行った活動件数は 3,309 件、送迎とその前後の預かりを併せて実施したケースを含めた活動件数は、6,352 件となっている。



意見・要望 平成29年度7月から産後ケア事業が始まりましたが、産後ケア施設型の利用期間は一般に産後1か月程であり、生後4か月まで利用可能となっている施設は2ヶ所だけ、産後ケアとして不十分です。育児不安が強いケースや、虐待が心配されるケースでは、ショートステイやデイサービスなどの産後ケアが、求められ、産後ケア事業の拡充をお願いします。ファミリーサポートセンター事業は、かつて地縁や血縁の中で行われてきた子育て援助が、都市化や核家族化の進行に伴い希薄化する中で、この地縁・血縁を代替し、住民同士の相互援助活動を組織化することを目指し、法的には児童福祉法に定められる「子育て支援事業」の1つとして位置付けられている。しかし、ファミリーサポートセンターの依頼会員に対して提供会員の数が全ての区において少ない状況が覗える本市では、今後も他の子育て支援事業や保育サービスでは対応することが出来ない「隙間」のニーズに対応するファミリーサポートセンター事業は益々ニーズが増すものと思われ、同事業の更なる周知と、積極的な働きかけをお願いします。

千葉市議会映像配信



一般質問の様子はどなたでもパソコンやスマホからご覧頂けます。詳細は、市ホームページ会議録及び録画放映をご参照下さい。

